

【学習指導方針（スクールポリシー）】

（1）生徒一人ひとりの「学びの基盤」を確立し、確かな学力の育成を図る。

「学びの基盤」である「時を守り、場を清め、礼を正す」を身に付け、授業規律や規範意識を高めたうえで、日々の予習・授業・復習に主体的に取り組む生徒を育成する。また、生徒一人ひとりの学習意欲を喚起し継続させるには、生徒一人ひとりの能力や理解度を正確に把握し個に応じた課題内容や支援を行わなければならない。その為、教員は生徒一人ひとりの学習カルテを作成するなど、指導の「見える化」に積極的に取り組む。

（2）授業の「アクティブ・ラーニング化」及び「ユニバーサル・デザイン化」を推進し、効果的・効率的な授業の開発に努める。

最初に授業の流れやねらいを明確に示すことで、生徒が見通しを持って授業に取り組めるようにする。また、授業内に適宜、ペアワーク・グループワーク・調べ学習（フィールドワークを含む）・体験学習等の場面を設定して生徒一人ひとりの能動的な授業参画を促し、全体での協働学習（まとめ）・ディベート・発表（プレゼンテーション）・質疑応答等を通して汎用的能力を育成する。更に、ICT機器を適宜活用することで、指導の焦点化・視覚化・時間短縮を図り、効果的・効率的な指導の開発に取り組む。

（3）授業・特別活動・部活動・学校行事を能登高イズムで統一し、能登高ブランドを鮮明にする。

教科指導、学級指導、部活動指導、進路指導、生徒指導等、学校教育の全ては教員一人ひとりの指導力次第であり、教員の指導力がそのまま生徒の姿であるという認識のもとに、生徒一人ひとりの才能を見出して育成するため、教員は生徒観察に日々集中し、生徒の個性に応じた声掛け・動機づけ・面談等の様々な支援・指導を行い、情報共有と共通理解を持って協働し組織的に取り組む。